

対話型論証による学びのデザイン

——教科と総合での探究をどうすすめるか——

2023年3月21日(火・祝)

14:00~16:00

京都大学吉田南構内
吉田南総合館(北棟)3階
共北38講義室

松下佳代 教授

京都大学大学院教育学研究科

専門は、教育方法学、大学教育学。とくに能力、学習、評価をテーマに、大学と中学校・高校をフィールドにして研究と実践支援を行っている。京都大学高等教育研究開発推進センター教授を経て、2022年10月より現職。

講師からのメッセージ

私たちは、これまでになく変化の激しい不確実で複雑かつ曖昧な世界を生きています。そんなときだからこそ、学校で身につけてほしい力を、私は「対話型論証」という言葉に込めました。「対話型論証」とは、「ある問題に対して、他者と対話しながら、根拠をもって主張を組み立て、結論を導く活動」のことです。私はこれまで、小学校から大学まで、さまざまな教科や分野などの教育実践を見てきましたが、対話型論証は、そのどこにおいても重要な活動となっています。もちろん、学校段階や教科・分野によって違いはありますが、共通性をおさえておくと、かえってそれぞれの特徴がよく見えてきます。

今回は、中学校・高校の教科や総合での探究を例に取りながら、対話型論証の考え方と実際についてお話しします。

対 象 学校の先生方、教育委員会の関係者、教員志望の学生（定員 50 名程度）

お申込フォーム <https://forms.gle/7vF1yz7dXhWA6rDh7>

右下の QR コードからもアクセスいただけます。

申込締切：3月12日(日)、但し、定員になり次第締め切ります。

※なお、同日午前より開催している第18回実践交流会にお申込みされている E.FORUM 会員の方は、本講演会へのお申込みは不要です(実践交流会のプログラムの中に松下教授の講演会を含んでいます)。



参考文献



松下佳代『対話型論証による学びのデザイン——学校で身につけてほしいたった一つのこと』勁草書房、2021年

松下佳代・前田秀樹・田中孝平『対話型論証ですすめる探究ワーク』勁草書房、2022年



【その他の著作】

松下佳代『パフォーマンス評価——子どもの思考と表現を評価する』日本標準、2007年

松下佳代編著『〈新しい能力〉は教育を変えるか——学力・リテラシー・コンピテンシー』ミネルヴァ書房、2010年

松下佳代・京都大学高等教育研究開発推進センター編著『ディープ・アクティブラーニング』勁草書房、2015年 など。

アクセス



松下佳代教授講演会
京都大学吉田南構内
吉田南総合館(北棟)3階
共北38講義室

※東側の入口からお入りいただき、正面エレベーターをご利用ください。

お問合せ

京都大学大学院教育学研究科

E.FORUM 事務局

e-forum@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp